

## 令和 2 年度幼保連携型認定こども園七つの星幼稚舎事業報告

令和 2 年度は日本国内で新型コロナウイルス感染症が発生しその対応に翻弄された一年でした。

参加・協力型の諸行事や施設見学等の教育・保育活動が中止・延期となる中、園内の活動については、どうしたら実行できるかを検討し、一部見直しをしながら一日たりともゆるがせにできない子どもたちの育ちの支援を行ってまいりました。しかし、保護者支援においては、感染対策を万全にすることを優先したため、相互理解が十分出来なかったと考えます。コロナ禍の中で見えてきたこともあり、今後に活かしてまいります。

正職員 3 名と嘱託職員 2 名の退職がありましたが、令和 3 年度の園児の受け入れや職員処遇に大きく影響するため、職員の採用、定着の取り組みに課題を残すこととなりました。こども、保護者、職員の笑顔を守るために一層の努力が求められています。

### 令和 2 年度の重点項目

#### (1) 幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づいた教育・保育の展開

全国認定こども園協会主催の「幼保連携型認定こども園保育・教育要領」に基づいた自己評価研修を主幹教諭 2 名と園長がリモートで受講した。園の全体計画(教育課程)が教育・保育要領に沿って作成されていることを確認する機会ともなった。

#### (2) 地域交流事業の推進

高齢者や地域との交流は全くできなかった。高齢者施設での対面での交流は今後も困難と思われるがリモートなどの方法を提案できると良かった。

### 特別保育事業

#### 延長保育事業

標準 延べ 589 人

短時間 延べ 32 人

#### 一時預かり事業

延べ 3,867 人(幼稚園型)

20 人(一般型)

#### 障害児保育事業

延べ 24 人(対象児 2 人)

診断書がある児は 2 名であったが、気になる子供は増加傾向にあり、保護者の理解が必要。

### 地域交流事業

地域や園の夏祭りでの交流

中止

就学前児 22 名学校訪問（広瀬小学校・広瀬北小学校）  
入学にあたり、小学校を訪問。  
学内を案内してもらったり、給食や授業風景を見学したりすることはできなかった。  
高齢者カフェ 0・100  
地域のお年寄りとの交流（宮本・梅野地区）

資料：別添

### 地域子育て支援事業

子育て支援センターを活用した子育て支援  
園庭解放

資料：別添

### ボランティア、就業体験受け入れ事業

保育士養成機関実習生受け入れ

宮崎学園短期大学 3名 10日間 2/15（月）～ 3/1（月）

就業体験

宮崎学園短期大学 1名 1日間 3/4（木）

保育実習

佐土原高校 1 年生全員 中止

ボランティア

予定していた佐土原高校生のボランティアは生活発表会、マラソン大会ともに、辞退となる。

### (1) 教育・保育内容

モンテッソーリ教育

音楽

- ・和太鼓
- ・マーチング
- ・器楽

\* 外部講師（日本総合音楽研究）佐元貴之氏による指導（年 5 回）

英会話

・異文化体験の導入として、又、国際化に備えて外国人講師による英語教育

講師：ジェイムス・エイダーン・バーン氏（アイルランド）

年少児・年中児・年長児 毎週 1 回

### 体操教室

- ・外部専任講師による体操教室

宮崎ジムナステックスクラブ（河野智子氏・宇都宮咲樹氏）

年少児・年中児 月 2 回

年長児 月 4 回

### お作法（茶道）

- ・毎月 1 回（年 12 回）

くじら館東西和室 「0 100」の茶室

卒園式終了後、子供たちがご両親にお薄を差し上げた。

我が子の成長に感動される保護者の姿があった。

### 健康的な体をつくるために

- ・身体を十分に動かす機会を多く持った。

ラジオ体操 + ランニング 毎日

鉄棒、跳び箱、雲梯、裏山で遊ぶ、散歩等

## (2) 健康管理

- ・内科健康診断（春、秋各 1 回）全園児

山村善教医師

- ・歯科健康診断（春 1 回）全園児

後藤剛久歯科医師

- ・蟻虫検査（年 2 回）

\*平成 28 年度より法的には受検しなくてもよいことになっている。

- ・尿検査（年 1 回）

- ・身体計測（毎月）

- ・視診、触診（登降園時）

- ・体温測定 \*全児毎日

## (4) 食育

子どもの食事は、子どもの生命の保持や、健全な発達の保障にかかわる大変重要なものである。

- ・コロナ感染症対策で黙食の協力を求めた。楽しく家庭的な食事からの転換を

余儀なくされた。

- ・給食計画を立て、栄養のバランスや食品選択に留意した。
- ・行事や地域の慣習を取り入れ、食文化の伝承に努めた。
- ・栽培活動や調理活動を通して、食材に触れたり、においを感じたり、味わったりした。
- ・食中毒の予防に留意した。

#### (5) 安全管理

入所児童に対する環境面での安全対策には特に配慮すると共に、児童自らが危険に対してすばやく行動できる力を、日々の保育の中で身につけるように援助した。

- ・交通安全教室 5/28(木)
- ・防災・通報及び避難訓練(毎月1回)
- ・不審者侵入訓練 自主訓練(年4回)
- ・消防署との合同訓練及び署員による講話 11/9(月)

#### 職員処遇

働きやすい職場環境の形成と職員の資質の向上。(働き方改革)

#### (1) 職員構成

園長1名、副園長(主任保育士)1名、主幹教諭2名 保育教諭17名、看護師1名、  
短時間勤務保育教諭10名、保育助手2名 学童支援員1名  
栄養士1名 調理員等1名 事務1名 雇用人1名 計39名  
その他 嘱託医2名 学校薬剤師1名

#### (2) 健康管理

定期健康診断、腸内細菌検査、O-157検査  
市民の森病院・山村内科医院で健診

#### (3) 研修

研修は中止・延期となる。また開催される研修はリモートであった。

#### (4) 福利厚生

健康診断

職員間の親睦を深める取り組みはそのほとんどを実行できなかった

(5) 職員会議・給食会議

定例毎月1回、その他随時開催

カリキュラム作成や指導計画、行事の検討・評価反省

気になる子供や事故・疾病、保護者の意見・相談等について協議した。

3 保護者との連携

(1) 園行事への参加は運動会、生活発表会等制限せざるを得なかった。

(2) 園だより、給食だより、クラスだよりの発行(月1回、その他適宜)

(3) 保護者会

例年、子育ての良きパートナーとして行事等を中心にご協力いただいているが、今年度は、対面での活動はほぼ出来なかった。

4 意見・要望への迅速な対応

保護者の意見・要望には迅速に対応し、内容について検証し改善した。

5 地域社会との連携

(1) 地域関係機関との協力

・中学生・高等学校生の就業体験中止や地域行事への参加が取りやめとなる中、地域の生活道路のゴミ拾いや地域の子供の見守りに協力した。

(2) 世代間交流

・ホームカミングデー

昨年3月は新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止としたが、今年度は、十分な感染対策をして、実行することが出来た。小学6年生15人、中学3年生13人の参加があった。特に中学3年生は高校進学が決まり、通う中学校が異なることもあってか、予定の時間を大幅に超えて交流を楽しむ姿があった。

(3) 地域の子育て支援

自粛を余儀なくされる期間もあったが、活動は別添参照。

6 施設整備

入所児が家庭と同様の雰囲気の中で快適に生活できるよう、又職員の働きやすい環境を整えるため施設整備の充実や保全に努めた。